気仙沼市立鹿折中学校　　令和２年７月２１日（火）　第６号

校長室だより

校長　菅原　定志

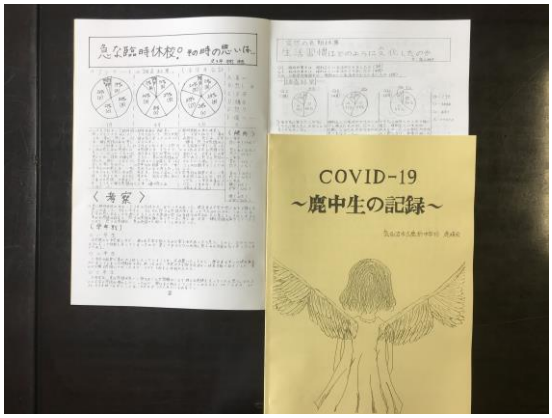
COVID-19　鹿中生の記録

７月１８日(土)に行われたＰＴＡ奉仕作業には，たくさんの保護者の皆様に参加していただき，ありがとうございました。雑草だらけの校庭が，見違えるようにきれいになりました。

さて，先月学校再開と同時に，生徒会総務の皆さんが全校生徒を対象にアンケート調査を行い，その結果をまとめた冊子「COVID-19　鹿中生の記録」が完成しました。

巻頭では，「このプロジェクトは，コロナウイルス感染症による３月初めから５月末までの約３ヶ月間の臨時休校期間を受けて，生徒はその期間，どのように生活していたのだろうという思いから始まりました。コロナ禍の中で私たちはどのような思いや気持ちで生活していたのか，心身にどのような影響や変化があったのかを知るためアンケート調査を行い，その結果を考察しました。(中略）この調査結果が，このような非常事態をどう乗り越えるのかの道標となり，次の世代が次を乗り越えるための知恵として，役立てて行ければと考えています。」と述べられています。

今回のアンケートは，質問事項を教員と生徒で考え，生徒の負担増にならないように集計は教員が行ったものの，調査結果や考察，まとめはすべて生徒の手で行いました。私は初めて原稿を読ませてもらったとき，考察の鋭さに驚きました。そして，冊子の完成と同時に，今年度から防災学習のアドバイザーをお願いしている東北大学の佐藤翔輔准教授に冊子を送りました。佐藤准教授からは次の文面のメールが届きました。「生徒さんらによる COVID-19 記録を拝読しました。素直に大変驚きました。調査結果にもとづく考察する能力は高いです。以下の結果・考察は興味深いです。〇感情が学年ごとに差があること（それだけ敏感な３年間であること)，〇分散登校の措置が，生活リズムを取り戻す大きな施策になっていたこと，〇こういう状況になることを想定して「自主学習の方法の確立の必要性」を結論づけていること，〇この間に「これを機に周りに差をつける努力」が存在していたこと。秋以降の防災学習が何も心配ないと思います。朝から，よいパンチをいただきました」。



先日の学年懇談会の際に，子どもたちが活躍できる場を設定していきたいとお話をさせていただきました。校内で行っている活動は，とてもレベルが高く，価値のあるものだと思っています。その活動を外部に発信していくことが大切になってくるのだと思っています。東北大の佐藤准教授とも防災学習の外部への発信については話をしています。外部の方に認められ，賞賛され，時には助言されたり指導されたりしながら，生徒は成長していくと思います。そのような場を設定するよう，努力していきます。

「COVID-19　鹿中生の記録」はお子さんに配布しました。ぜひご一読いただければ幸いです。